情報モラル教育　大玉村立玉井小学校

キーワード：デジタル・シティズンシップ教育、ふくしま情報モラル診断

Ⅰ　研究について

1　情報モラル教育に関しての学校課題

５月に本校の全児童とその保護者を対象に「ふくしま情報モラル診断」を実施したところ、家庭でインターネットを利用している児童の数は全体の約半数であることが分かった。また、「インターネットでトラブルにあったことはありますか」という質問に対して、「ない」と答えた児童は全体の９割を超えており、**SNS でのトラブルは少ない**ことが明らかとなった。しかしながら、情報モラルに関するクイズでは、**安全への知恵や法の理解などの正答率が低く**、**情報モラルについての正しい知識を身に付けている児童は少ない**結果となった。また、「インターネットの使い方について、家庭でルールを決めていますか」という質問では、「決めている」と答えた児童が５３％であったのに対して、「決めている」と答えた保護者は７０％であった(図１、図２)。このことから、**児童と保護者でルールの認識に大きな差**があることが明らかとなった。児童と保護者のアンケート結果や教職員への聞き取りから、本校における情報モラルの課題として以下の３点が挙げられる。

質問　「家庭でルールを決めていますか」

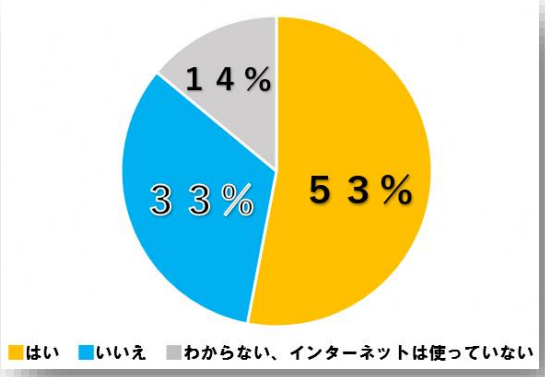


図１　児童の結果

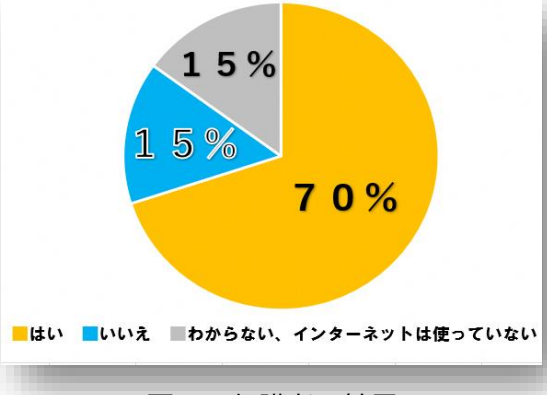


図２　保護者の結果

①　児童と保護者でインターネットの使い方についてのルールの認識に差がある。

②　情報モラルについての正しい知識を身に付けている児童・保護者が少ない。

③　教職員が情報モラル教育に対して苦手意識をもっており、教職員の知識と指導力が不足している。

以上のことから本校では、児童が情報モラルを理解し、行動の善悪を自分で判断することができるよう、授業実践や校内研修を中心に研究を推進していく。

2　研究の概要

（1）　研究テーマ

デジタル機器の善き使い手を育てる

～情報モラルを理解し、行動の善悪を自分で判断する力を育むために～

本校では、『デジタル・シティズンシップ教育』を推進し、行動の善悪を自分で判断できる力を身に付けるための授業実践を行っていきたいと考えた。校内研修では、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター(GLOCOM)の豊福晋平准教授の資料を中心に研修を行い、本校職員の指導力向上を目指すこととした。また、保護者を対象とした情報モラルに関する講演会を行い、保護者の情報モラルに対する意識を高めていきたいと考えた。

デジタル・シティズンシップ教育とは…

「デジタル技術を使用して学習、創造し、責任をもって市民社会へ参加する能力（※）」を育むことを目的としている教育。定まった行動規範やルールを教えて態度や考え方の理解にとどめるのではなく、行動の善悪を自分で判断できる力を身に付けることができるように指導していくもの。

※はじめようデジタル・シティズンシップの授業（2023 年 日本標準）から引用

（2）　年間計画(授業実践、授業研究会等)

時　期	実　施　内　容
６月１４日	玉井小オープンスクール 第２学年 道徳科「みんなのニュースがかり」 第５学年 道徳科「アップするの？」
６月１９日	第１回　校内研修会「ふくしま情報モラル診断の結果について」
７月１３日	第２回　校内研修会「ネットやＳＮＳの安全な利用について」
７月２７日	おおたま学園全体会 研修会 「テクノロジーの善き使い手を育てるデジタル・シティズンシップ教育」 講師　国際大学GLOCOM　准教授・主幹研究員　豊福　晋平　様
９月２５日	第３回　校内研修会「メタモジを活用した教材づくりとメディアリテラシーについて」
１０月２７日	親子情報モラル教室「情報モラルについて考えよう」 講師　医療創生大学心理学部　教授　中尾　剛　様
１１月１５日	第４回　校内研修会「情報モラル教育の授業づくりについて」
１２月上旬	各学級で道徳科の時間に情報モラル教育を取り入れた授業を実施

Ⅱ　研究の実際について

1　校内での実践

（1）　おおたま学園オープンスクール

①第２学年　道徳科「みんなのニュースがかり」

学習活動・内容	時　間（分）	○指導上の留意点　◎村重点関連　※評価
1　学習課題を確認する。 （1）教材の挿絵を提示し，どんなことが起こっているか考える。 ①　けいすけがニュースを書く挿絵 ②　友達が怒っている挿絵 （2）教材文を読み，けいすけの行動について話し合う。 ・　間違ったニュースを書いてしまったのはよくなかった ・　きちんと直したところはよい （3）　学習課題を確認する。 みんながおこらないためには，どうしたらいいかな。	１５	○　教材の挿絵から，何が起こっているか，けいすけ本人や友達の気持ちを想像することにより，けいすけがよいと思ってやったことが友達を困らせていることを捉えやすくなるようにする。 ○　間違った情報をニュースとして伝えたことで，友達を怒らせたこと，けいすけがニュースを書き直したことを確かめることを通し，正しい情報の伝達や，進んでよいことをする大切さに気付くことができるようにする。 ※　よいと思うことを進んで行うことについて，登場人物の気持ちに自分を重ねながら考えているか。（発表，ワークシート） ○　「怒らない＝喜ぶ，嫌な気持ちにならない」ことを確認する。
2　みんなが喜ぶニュースにするためには，どうしたらよいか考える。	１５	
（1）ペアで話し合う。 （2）自分の考えを書く。 （3）全体で話し合う。 ・　正しいことを書く。 ・　「たぶん」では書かない。 ・　まちがっているかもしれないからたしかめてみよう。		○　ペアで話し合う場を設定することにより，自分の考えを言語化しワークシートに書くことができるようにする。 ◎　全体で考えを話し合うことにより，様々な考えや感じ方があることに気付くことができるようにする。【視点２】
（4）テレビで間違った情報を伝えていたら，どう思うか考える。 ・　みんなが間違ったことを信じてしまう。 ・　怒る。嫌だ。		○　間違った情報が伝えられていたら，怒ったり，嫌な気持ちになったりすることを考えることを通し，正しい情報を伝えるよさに気付くことができるようにする。
3　「よいこと」「よくないこと」を考えて行動したことについて，自分の生活を振り返る。	１０	◎　「よいこと」「よくないこと」について生活を振り返ったり，その時の気持ちを考えたりすることを通し，よいと思ったことを進んで行うことについて実践意欲につなげられるようにする。　【視点１】 ※　よいと思うことを進んで行うことについて，自分の生活を振り返って考えているか。（ワークシート）
4　学習を振り返る。	5	○　友達の考えのよいところや，大切だと思ったことを振り返りの視点として提示することで，本時の学習を振り返り，ワークシートに書くことができるようにする。

〈情報モラルの視点①〉

「みんなが喜ぶニュースにするためにはどうしたらよいか」について考える。

主人公が間違った情報をニュースとして学級に発信したことで友達が怒ってしまったことを踏まえ、「みんなが喜ぶニュースにするためには」どうしたらよいかについて話し合った。

〈情報モラルの視点②〉

間違った情報を発信されたらどうか考える。

児童の生活経験に合わせて自分が受け取る情報が間違っていたらどうか考える活動を行った。本村では授業の実施時期に野生のクマが出没し、注意を呼び掛ける村内放送が毎日のように流れていた。さらに、それに関する間違った情報も噂として流れていた。本時ではそれを例として取り上げ、「クマが出る場所が間違って伝えられていたらどうか」といったことを考えた。

〈成果〉

書く前に正しい情報であるか確かめることや、**間違ったことを書いてしまっても正しく書き直す**ことの大切さに気付いている児童の姿が見られた。**正しい情報の発信**について理解を深めることができた。

② 第５学年　道徳科「アップするの？」

「ふくしま情報モラル診断」を活用した授業

「ふくしま情報モラル診断」とは…
家庭でのインターネットの利用状況を調査したり情報モラルに関する実態を把握したりすることができる。

学習活動・内容	時間（分）	○指導上の留意点　◎村重点関連　※評価
1　本時の課題をつかむ。	7	
（1）「ふくしま情報モラル診断」の結果を見て，気付いたことを発表する。		◎ 本時と関連性の高いＳＮＳとメディアコントロールの集計結果について全体で共有し，教材を自分事として捉えることができるようにする。【視点
（2）コミュニティサイトで被害にあった子どもの数のグラフを見て，情報発信の危険性について考える。 ・ 年々被害数が増えている。		○ 具体的な内容の資料を提示することで，ネット被害が他人事ではないことに気付くことができるようにする。
（3）学習課題を確認する。 情報を発信する時に，大切なことはどんなことだろうか。		
2　教材文を読んで考える。	１０	
（1）教材文の内容を整理する。		○ 登場人物のイラストを使い，関係を明確化する。
（2）改めてＡ子の気持ちを考えた時のわたし」の気持ちを考える。 ・ こんなに嫌な気持ちになるとは思わなかった。 ・ ＳＮＳに写真をアップすると，誰が見ているか分からないから不安だな。		○ Ａ子が嫌がった気持ちと「わたし」が不安になった気持ちを比べることによって，SNSにアップすることと，周囲の人に写真を見せることの違いを考えさせるようにする。
3　資料を使って考える。	２０	
（1）全員で「ふくしま情報モラル診断」の問題を解く。		○ 「ふくしま情報モラル診断」の中の，「言葉づかい」，「情報発信」，「ルール（法律）」，「情報を見分ける」の分野から問題を出題し，４つの視点で自分の考えをもつことができるようにする。
（2）自分の考えをワークシートに書く。 ・ ルールを決めて使う。 ・ 情報を信じすぎない。 ・ 相手の気持ちを考えて情報を発信する。 ・ 誤解される言葉遣いになっていないか確認する。		◎ グループや全体で考えを共有するこ[illegible]って，情報モラルや情報活用能力について考えを深め[illegible]ようにする。【[illegible]】
（3）グループで交流する。		
（4）全体で考えを話し合う。 ・ 相手の立場に立って考える。 ・ きまりやルールを守る。		※ 周囲や相手の状況を踏まえつつ，自律的に判断し，責任ある行動をすることについて自分と関わらせながら考えることができている。（発言・観察・ノート）
4　本時の振り返りをする。		
（1）自分の考えをまとめる。	8	○ 感じたことや考えたことなど視点を決めて振り返り，考えをまとめることができるようにする。
（2）教師の説話を聴く。		○ ＳＮＳには，プラスの面とマイナスの面があることについて，教師の体験を基に話す。

〈成果〉

「ふくしま情報モラル診断」の問題を全員で解く活動を通して、情報を発信するときに気を付けることについて様々な観点から考えることができた。情報を発信するときは、相手の立場に立つことや、きまりやルールを守ることが大切であることに気付く姿が見られた。

〈情報モラルの視点①〉

「ふくしま情報モラル診断」の結果から自己を見つめ直す。

「ふくしま情報モラル診断」を事前に実施し、正答率が低かった結果を全体で共有した。

〈成果〉

「ふくしま情報モラル診断」の結果を全体に共有することで、自分たちの**メディアとの関わり方を振り返ったり、メディアコントロールや情報を正しく扱うことの難しさ**について考えたりすることができた。

〈情報モラルの視点②〉

「ふくしま情報モラル診断」の問題を解く。

「ふくしま情報モラル診断」の問題を解き、情報を発信するときに気を付けることについて考えた。

（２） 長期休み前の授業実践

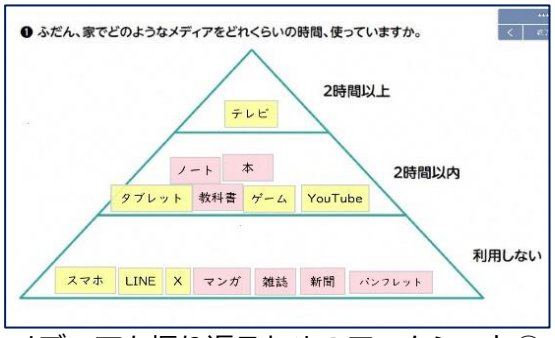
① デジタル機器との付き合い方を考える授業実践(夏休み前)

STEAM ライブラリー - 未来の教室（steam-library.go.jp）

夏休み前に**デジタル機器との向き合い方**を考える授業を全学年で実施した。授業では、デジタル・シティズンシップ教材を視聴し、自己の生活を振り返りながら夏休みの計画を立てる活動を行った。**「夏休みの宿題に２時間取り組んだら３０分使うようにしたい」**と計画を立てる児童や、**「タブレットで動画を見ることは好きだけど、友達と遊ぶ時間や家の手伝いをする時間も大切だから、使いすぎないようにしたい」**と、**自己の生活を振り返って夏休みの計画を立てる**児童の姿が見られた。

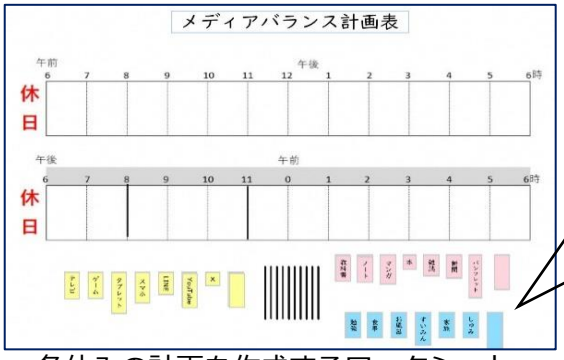
② メディアバランスについて考える授業実践（冬休み前）

冬休み前に**メディアバランスを考える授業**を高学年で実施した。授業では、普段、どのメディアをどれくらいの時間使っているのかを振り返った。その後、メディアバランスを考え、冬休みの計画を作成した。**メディアの使い方を具体的に振り返る**ことで、「YouTube を見ている時間を減らして家族時間を増やしたい」と計画を立てる児童や、「睡眠の時間を増やすためにゲームの時間を減らしたい」と、**優先順位を決めて計画を立てる**児童の姿が見られた。



メディアを振り返るためのワークシート①

メディアを振り返るためのワークシート②



冬休みの計画を作成するワークシート

メディアの種類とメディアを使わない時間に何をするか選択できるようにした。

（３） 校内研修

① 第１回 校内研修 「ふくしま情報モラル診断の結果について」

図３ ふくしま情報モラル診断結果(児童)

図４ ふくしま情報モラル診断結果(保護者)

児童のメディアリテラシーを育成するためには、児童と保護者両方の実態を把握することが欠かせない。そこで、第１回の校内研修では、５月に実施したふくしま情報モラル診断の結果を確認した。**学年によって情報モラルに関する知識にばらつきがある**ことや(図３)**保護者の正答率が低かった**こと(図４)などを共有した。また、児童の正答率が低かった問題を教職員が実際に解くことで、児童の課題を再認識できた。

② 第２回 校内研修 「ネットやＳＮＳの安全な利用について」

STEAM ライブラリー - 未来の教室（steam-library.go.jp）

・デジタルデバイスとの付き合い方
・トラブルへの対応
・ＳＮＳの使い方

インターネットや SNS を使う上で起こり得る様々な問題について児童が主体的に考え、責任をもってデジタルツールを使うことができるように、**情報モラル教育+デジタル・シティズンシップ教育**という考え方で情報モラル教育を進めていくことの重要性について、教職員全体で学ぶことができた。教材として作成された動画の紹介や活用方法を教えていただき、**デジタルデバイスとの付き合い方**や**トラブルへの対応**、**SNS の使い方**を考えることができる教材であることを共有した。

（４） 親子情報モラル教室(児童・保護者対象)

「情報モラルについて考えよう！～ネット依存、SNSによる被害にあわないために～」

講師：医療創生大学心理学部教授　　中尾　剛　様

親子を対象とした情報モラル教室では、**「SNS やネットゲームの危険性」**や**「子どもの SNS 被害」**についてご講演いただいた。ゲームの依存度をチェックしたり、著作権について考えたりすることで、児童が自分事として考えることができた。また、デジタル機器と上手に付き合っていくためには、**「守れるルールをつくること」**が大切であることをお話ししていただき、**「怒られるからルールを守るのではなく、危険から身を守るためにルールがある」**ことを確認することができた。

Ⅲ　成果と課題

1 成果

○　児童が「ふくしま情報モラル診断」の問題を解く活動を通して、情報を発信するときに気を付けることについて様々な観点から考えることができた。情報を発信するときは、相手の立場に立つことや、きまりやルールを守ることが大切であることに気付く姿が見られた。

○「ふくしま情報モラル診断」のアンケート結果を授業に生かすことで、メディアとの関わり方を振り返ったり、メディアコントロールや情報を正しく扱うことの難しさについて考えたりすることができた。

○　長期休業前に情報モラルやデジタル・シティズンシップ教育に関する授業を実践したことで、メディアとの関わり方を客観的に評価したり、優先順位を決めて計画を立てたりする力の向上が見られた。

○　教職員研修や校内研修を通して、教職員の情報モラルやデジタル・シティズンシップ教育に関する意識を高めることができた。

2 課題

● 教員一人一人が GIGA スクール構想を改めて正しく・深く認識した上で、児童がテクノロジーの善き使い手としてデジタル機器を積極的に学習や生活に生かしていけるように推進していく必要がある。

● 親子の情報モラル教室や保護者へのアンケートを実施したことで、情報モラルやデジタル・シティズンシップ教育への関心が高まっている一方、家庭によって認識の差が大きいため、今後も家庭への働き掛けを行っていく必要がある。

【引用文献・参考文献・参考 URL】

・　経済産業省.「未来の教室」STEAM ライブラリー.

https://www.steam-library.go.jp/content/132（参照 2024-2-22）

・　坂本旬・豊福晋平・今度珠美・林一真・平井聡一郎・芳賀高洋・阿部和広・我妻潤子(2022).「デジタル･シティズンシッププラス　やってみよう！創ろう！善きデジタル市民への学び」.大月書店.

・　堀田和秀・津田泰至(2022).「ＧIGA スクール時代の『ネットリテラシー』授業プラン」.学芸みらい社.

・　坂本旬・豊福晋平・今度珠美・林一真・芳賀高洋(2022).「デジタル・シティズンシップ　コンピュータ１人１台時代の善き使い手をめざす学び」.大月書店.

・　坂本旬・豊福晋平・芳賀高洋・今度珠美・林一真・野本竜哉(2023).「はじめよう！デジタル・シティズンシップの授業―善きデジタル市民となるための学び―」.日本標準.